



LONGIN

We create in Tokyo Japan since 2011

WEB MAGAZINE Vol.



バチセレクション登場!

PLEX

sinking type jointed lipless for salt water



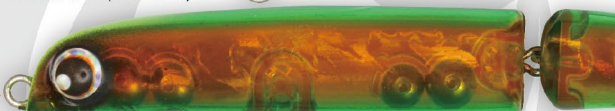
クリアレインボー (クリアマグマ)



チャートクラウン (クリアマグマ)



ピンクオレンジ (クリアマグマ)



グリーンブラウン (クリアマグマ)



マジックグリーンレッド (クリア)



グローテールブラック (クリアマグマ)

※シーズン限定生産



バチシーズンいよいよ本格スタート!

PLEXならもっと釣れる! バチゲーム徹底攻略法!

Text by 村松 怜

LONGIN の第2段ルアーとして発売されたジョイントシンキングリップレスミノーの「PLEX (プレックス)」は、その見た目からバチ用ルアーと始め思われた方も多いのではないかと思います。

発売から一年が経ち、バチシーズンや秋のハイシーズンを含め年間を通してPLEXによる沢山の釣果を聞かせて頂き、通年ご使用頂けるルアーだということを再確認できとても嬉しいです。PLEXを投げで遊んで頂き、本当に有難う御座います。

通年ご使用頂ける「PLEX」ですが、今回はこれから最盛期となる「バチ抜け」の際の私なりの使い方について書かせて頂きたいと思います。

バチパターンでPLEXを使う基本動作

バチパターンのセオリーとしては、流れに対してアップ方向にキャストし、ルアーを流れに乗せながら水面直下や表層をラインスラック

をとる程度のデッドスローで流してくる。このようなドリフトの釣りがメインとなると思いますが、PLEXはシンキングですのでアップにキャストして流れに乗せているだけでは沈んでしまい、ルアーが深いレンジに入ってしまう。

その時のバイトレンジが表層ではないときは、沈めながら流し込んでいき、魚の目の前にもっていくという方法でもバイトが得られるときもありますが、水深が浅いシャロー域では、ただ流しているだけではボトムにすってしまいます。ただし、バイトレンジがボトム付近など深い場合は、キャスト後流れに乗せながらボトム付近を漂わず狙い方もあります。

アップにキャストして流れに乗せながら一旦着底させ、ロッドを立て気味にして流れよりも若干速めにリトリブして巻き上げれば、その時のバイトレンジを探ることもできますね。

スピードやラインテンションを変えて喰わず!

塩分濃度・流れの強さ等の条件で変わることもありますが、アップキャストで使う際は完全に流れに乗せて流すのではなく、流れの速さによって少しリトリブスピードを「デッドスロー」→「スロー」位に

PLEX
sinking type jointed lipless for salt water

バチセレクション※シーズン限定生産

バチシーズンのみの限定生産。全6色。
(今シーズンはすでにメーカー在庫切れ)



調整したり、ロッドの角度を調整したりしてレンジを調整しています。

また、そのレンジを調整した状態でルアーを送り込んでいき、流れの強さを考慮し

て、シーバスが待ち構えているスポットに到達する少し手前であえてロッドを下げたラインを送り込み、ナチュラルにアクションさせることもあります。

ラインテンションが少しでもかかっているときと、ラインをフリーにした状態では、「ジョイントルアー」である PLEX は姿勢や動きが微妙に変わるので、魚が待ち構えているところで行えばリアクションバイトも期待できるのです。

流れを生かしてよりナチュラルに演出するには？

流れにナチュラルに乗せて使用する時は、PLEX の飛距離を生かして流れの筋をまたぐようにややアップにキャストし、流れが一番早い筋をラインの頂点としU字に流していきます。

その際に気を付けているのは「V」ではなく、「U」になるようにラインを操作することです。流れがある状態ですので「ジョイントルアー」である PLEX は何もせずともアクションしてくれています。しかし、先に書かせて頂いたようにロッド操作やリトリーブで微調整をすることも重要です。

なぜ「V」ではなく「U」なのかというと、「V」に流していくと角度がどうしても急になってしまい、流れに対して少し角度がつきすぎる感じになってしまうからです。それでは流れにのせて流した際にルアーの横に流れが当たりすぎてしまい、動きがナチュラルになりづらくなってしまいます。

そして何より、PLEX はターンしてルアーの向きが完全にアップに



変わる手前の、横になった瞬間にバイトが出やすいからです。「V」で流してターンさせるよりも「U」でターンさせた方が、わずかな時間ですがその状態をより長い時間保つことができるので、ターン中のバイトをより多く得られると僕は考えています。

ラインのU字を手前やダウン側に少しづつずらしていきバイトゾーンを探っていきます。このとき、流れの筋の境目の奥側・筋の中・筋の手前側など、ルアーの向きが変わる点の位置も色々探ってみるとよいでしょう。

反応があってもフッキングまで至らない場合は、流れてくるバチではなく他のベイトを偏食している可能性もあるので、バイトがあったスポットより少し奥までルアーを送り、今度は巻いて PLEX を泳がせて、流れてくるバチではなく他のベイトを演出してやります。

バチが抜けていても必ずしもバチだけを捕食しているとも限りません。バチを食いに来ているベイトを捕食している可能性もあります。バチ専用のルアーではベイトを演出するのが難しいものもありますが、そこは流しても巻いても使用できるのが PLEX の強さ、しいては釣れる理由の一つでもあります。とくにシーズン終盤などでよく遭遇する色々なベイトが混在しているときほど有効です。

アップではなくダウン気味にキャストする時は、流れを受けながらナナメに、流されつつフラフラと泳がすイメージで操作します。ロッド操作・リトリブスピード等でレンジ・コースの調整をしながら行うとよいでしょう。

ブレイクなどの地形変化があるところでは、流れ方が変わったりヨレがあるため、フォールさせて動きに違いを出させるのも有効な方法です。

ローテーションの合間やフォローベイトにも!

PLEX はシンキングなので、スローリトリブだとどうしてもレンジが下がってしまい、ウェーディングや足場が低い場所では水面直下

を探ることが難しくなります。

私はそういった場所では先に他のルアーで表層を探り、反応がないときやそのルアーに反応が悪くなってきたときなど、フォローベイトとして使ったり、レンジを下げて少し深目や底バチのときに投げる人が多いです。もちろんレンジの融通性が高いので、勝負を急ぎたいときは先発で投げて探るといこともします。魚の居場所やレンジを探るために、初めに投げるのもありですね。

バチシーズンは、ストレートルアーに反応が良い時やジョイントルアーに反応が良いときなど、色々な状況があります。ですからルアーローテーションの中に PLEX を入れて反応を探っていく釣り方はとても有効だと思います。

私はミノーからシンペンに変えるときに間に PLEX を投げたり、シンペンのローテーションの間に PLEX を投げたりしています。そうすることで、ミノーやシンペンに反応しなかった個体が反応してくることが多々あります。

逆に PLEX をメインで使用しているときに、カラーローテーションをする間にシンペンやミノーを投げると、また違った反応を得られる時もありますので、その時の状況で臨機応変に色々試してみるといいですね。

「ミノー」「シンペン」「ジョイント」と様々な動き・波動のルアーをローテーションすることによって、それぞれ反応してくる違った個体の反応を得られるだけでなく、ルアーにスル速度が多少なりとも遅くなると思います。



ミノー→バイブレーション→ブレックスといったように、ルアーローテーションパターンの一つとして考えてもらいたいルアーです。

状況に合わせてフックを替えると釣りやすい!

レンジがどうしても深く入りすぎてしまうという状態や、泳ぎ姿勢の違いでバイトが得られないというような超シビアな状況のときには、フックサイズを変更することもあります。

フロントフック・リアフックの両方をサイズダウンするだけでなく、リアフックのみをサイズダウンしたり、リアフックにフェザーを付けるのも有効な方法です。フックサイズを小さくすると沈むスピードが抑えられ、より浅いレンジをひけるので、レンジ調整が容易になります。

リアフックにフェザーを付けて抵抗を増やしてやると、リアが必要以上に下がるのを抑えられるので、姿勢も動きも、よりおっとり・ナチュラルになります。

逆にバイトレンジがボトム付近など深い時は、フロントフックを大きくしたりもします。その時の状況により何が一番はまるのかはわかりませんが、釣りながら色々試してみるのも面白いです。

【私が実際に使用している参考フックサイズ（ガマカツ）】

フロントフック「RB-MH # 8～#12」

リアフック「RB-MH #10～#14」

どうしても喰わないときはロッドアクションを!

流したりフォールさせたり、巻いたりと PLEX を使った釣り方の基本を解説してきましたが、それでも反応が得られない時は、ロッドアクションを入れることもあります。

PLEX に流れを受けさせながら、ロッドを立てた状態でティップのみを上下に小刻みに振って PLEX に縦の動きを加えたり、流れの境目に入る時に横に軽くトゥイッチしたりします。すると、リアの振りが通常とは違った動きになったり一瞬動きにキレがでて、その動きにリアクション的に反応してくる魚もいます。

ポイントとしましては、バッドまで重さをのせるのではなくティッ



ブのみで細かくアクションさせる感じです。このときリトリーブはしないか、ラインスラックを回収する程度にするとよいでしょう。

カラーの基本はバチの色に合わせること!

カラーについて私なりの考えを書かせて頂きます。

まずバチが目視できるときは、実際にバチのカラーに合わせます。赤っぽいもの（クリアレインボー等）やピンクっぽいもの（ピンクオレンジ等）、緑っぽいもの（グリーンブラウン等）など様々なので、水面をよく観察してカラーを選んでいきます。常夜灯などの照明があるところでは特にシビアにするように意識するとよいでしょう。

潮が澄んでいる時はクリア系（クリアレインボー・チャートクラウン・ピンクオレンジ・クリアラメ等）、少し濁り気味な時は少し暗めのカラー（マジックグリーンレッド・グローテールブラック・グリーンブラウン・ブラピンクリア等）でシルエットを目立たせるようにしています。



また、何度も同じカラーを通し続けていると無駄にプレッシャーをかけてしまい、スレるのが早くなってしまいうことになりかねないので、こまめにカラーローテーションをして、その時の当たりカラーを探りつつ、スレるのも防止しています。

新たな可能性を秘めたルアー、それが PLEX！

色々とお書きいただきましたが、使い方はまだまだあると思いますし、そのときの状況やポイントによって無限大だと思っております。

バチパターンでもベイトパターンでも投げて魚と遊んで頂ける PLEX。

是非「シンペン」や「ミノー」などと同じように、ルアーローテーションの中に「ジョイントミノー」というカテゴリーを加えていただいて、これから最盛期となるバチパターンを楽しんでいただけたらと思っております。



村松 怜 (むらまつ・りょう)

LONGINフィールドスタッフ。fimoアドバンス。千葉県湾奥～内房エリアをホームグラウンドとし、通年を通して高い釣果を上げている新進気鋭の若手アングラー。とくに、ランカーを仕留める高い技術と独自の感覚に定評がある。LONGINとはプレックスルアーモニターを経てフィールドスタッフとなる。

その泳ぎ、
全てを感知する！



わずかな流れの存在も把握する
センシティブ・サーチベイト誕生

FRANKY

—フランキー—

120mm 20g Floating 1,995円(税込) 新発売!

フランキーは、流れの強い河川から干潟などの広大なシャローエリアを広くカバーし、効率よく探るためのサーチベイトとして開発されたシャローレンジ専用ミノ。フランキーの潜行深度は水面直下から60cm。潮の干満による潮位の変化や、リアクションの変化に素早く広く対応するためのレンジ設定です。

水掻きが強くアビールの大きな泳ぎでありながら、ボディシェイプとウエイトバランスの絶妙なバランスを追求することで、強い流れに対してもリップレスミノのように水を受け流すことで引き重りなく巻いてこられる使い勝手の良さと、シーバスを魅了するハイアビールアクションというふたつの要素を両立。それぞれ大ききの異なる高比重タングステンウェイトボールを4個使用し、更に移動玉を固定するためにマグネットを装着する事で、安定した抜群の飛距離とハイアビールで切れのある泳ぎを同時に実現しました。低速巻ではロールアクション、中速巻ではタイトオープンロール、高速巻になると超ハイアビールワイド系オープンロール。絶妙なボディ形状により、強い流れでも飛び出さないよう設定。リトリブ速度に応じて可変アクションを誘発させ、流れの変化を敏感に感知すると同時にアクションの変化で自然な食合わせの間を演出します!



カラー(並上から): 022 ブルー・マイアワシッドベロ(シャニンホロ)、023 コノシロ(プレーンホロ)、024 ボラ(レンズホロ)、025 レンズキンディー(銀粉ラメ)、026 金ボラ(メッキ) 027 チャートゴールドグロウ
キャンディー(マグマ)、028 ホラクリア(クリアマグマ)、029 チャートパールオレンジ(クリアマグマ)、030 クリアパール(クリアマグマ)、009 レッドヘッド(銀粉パール)



LONGIN

WE STRIVE TO Tokyo JAPAN since 2011

WEB MAGAZINE VOL.6

発行日：2013年1月26日

株式会社 LONGIN.